

ブラキムラとめぐる！仙台城下町ボヤージュ [2021年10月5日放送分・辻標なし]

毎月第1火曜日に放送しています。歴史家で街歩きの達人・ブラキムラこと木村浩二さんと、旧城下町に88本ある石柱=辻標から歴史の痕跡を探る旅です。街歩きのお供には、仙台市役所1階の市政情報センターなどで販売中の冊子、その名もズバリ「辻標」が便利です。88本ある辻標の場所や周辺の歴史が、写真とともに分かりやすく解説されています。放送とあわせてお楽しみください！

- 「奥州街道を江戸へ！」シリーズは先月で終わったはず…。今回は番外編です。仙台城下の南端まで来たら、ぜひ知っておきたい歴史スポットがあるのです。辻標は出てきませんが、今月も楽しく街歩きですよ！
- 前回写真を撮った、城下の出入口「丁切根」の看板から昭和市電通りに出た我々は、広瀬橋に向かってブラブラ。橋の少し手前=大通りがカーブして上り坂になる辺りで、木村さんがここら辺の昔の話をしてくれました。この辺りには「五軒茶屋」と呼ばれる、宿屋兼料亭のような施設があったそうです。
- 木村さんの幼い頃の記憶では、木造の2階建てで、立派な庭が見える場所まで来ると、三味線の音が聞こえたりしたといいます。
- その昔、今のように頑丈な橋が整備されるまでは、川を渡るには好天を待つ必要がありました。悪天候や増水時には、天候が回復して川の水位が下がるまで両岸で待たなくてはなりませんでした。そのための滞在場所として、こうした施設ができたのです。

- 江戸と東北を結んだ奥州街道は、伊達政宗晩年の若林城築城を機に新しいルートに付け替えられました。旧いルートは、現在の宮沢橋の辺りで渡し舟によって広瀬川を越えていました。その後、奥州街道が広瀬橋付近に改編されるとやがて広瀬橋がかかり、対岸にも宿場町が形成されました。
- 街道沿いに細長く形成された町…そう、長町です。というわけで、今回は辻標がないこともあります。木村さんの写真は広瀬橋を渡った対岸の長町側で撮影しました。
- <文・佐々木淳吾>

